

# 白馬村地域公共交通網形成計画

【概 要 版】

平成 31 年 3 月

白馬村地域公共交通会議

## 1. 計画目的と計画期間

### 【計画目的】

白馬村のこれからのまちづくりを考慮し、まちづくりと連携した面的な公共交通ネットワークを再構築するとともに、地域の足を維持・確保していくための具体的な方策を検討し、「白馬村地域公共交通網形成計画」として地域公共交通体系の構築に向けた取り組みを定めるものです。

### 【計画期間】

平成31年度～平成36年度までの6年間

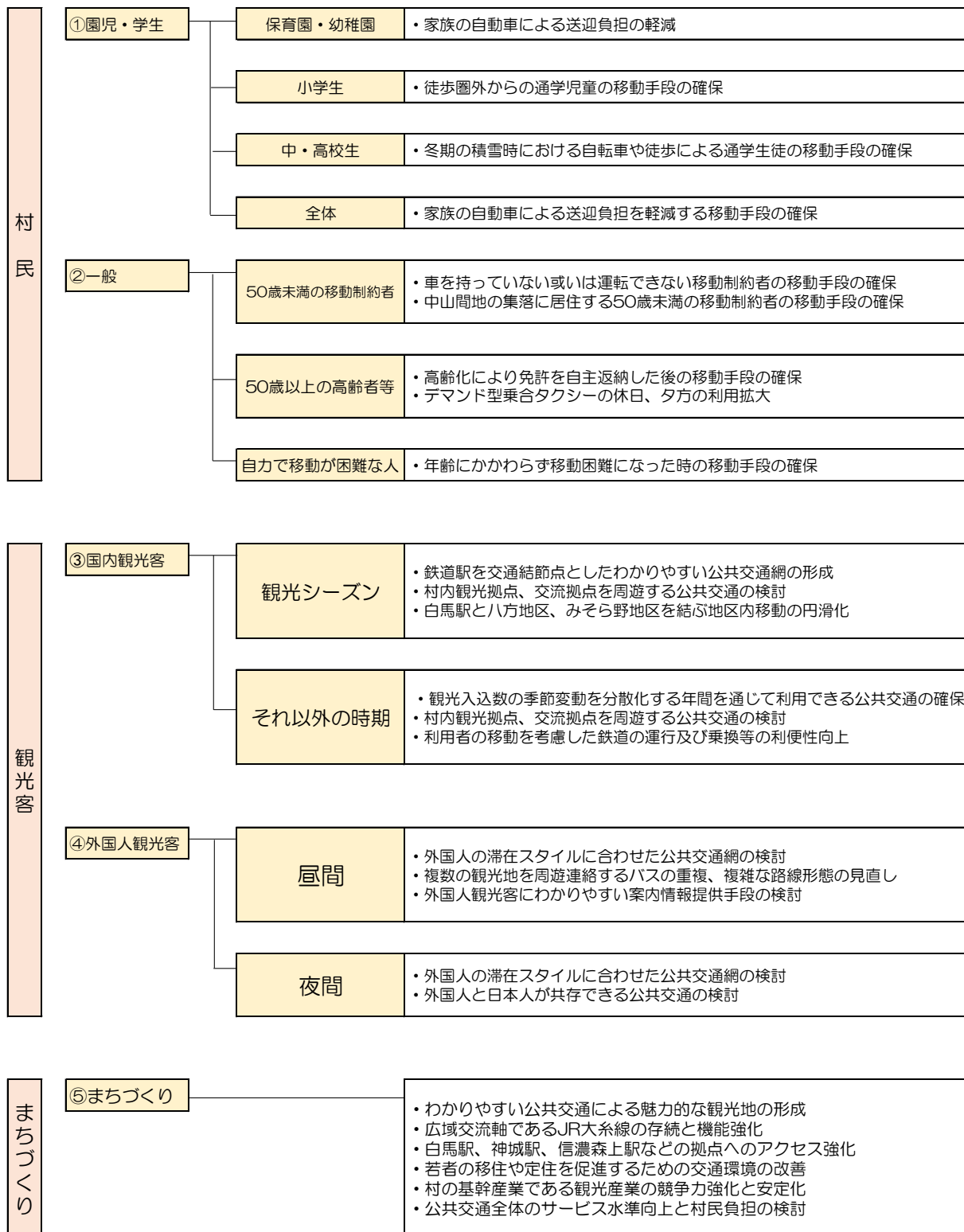
## 2. 公共交通に対する意向

村民の方のさまざまなニーズを把握するために、利用属性にあわせたアンケート調査を実施し、利用実態や公共交通に対する意向を把握しました。

調査種類	対象者	結果概要
村民アンケート調査  配布2,500世帯 回答1,677人	15歳以上の 村民（居住者）	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 何らかの理由で車を利用できない人の割合は24%である。</li> <li>• 村内移動の自家用車（送迎を含む）の割合は、通勤・通学が77%、通院が86%、買物が87%を占める。</li> <li>• 乗合タクシーの認知度は64%であり、運行日や最終便の時刻の評価に悪い点がある。</li> <li>• 50歳代以下では巡回バスの要望が高い。</li> <li>• 公共交通の満足度は全体的に低く、特に鉄道と路線バスに対する満足度が低い。</li> <li>• 現在の公共交通のサービス水準を保つためには、村民全体で負担を考えるべきという意見が半数を占める。</li> </ul>
通園・通学者 アンケート調査  【回答者数】 園児147人 小学生226人 中学生90人 高校生199人	園児・小学 生・中学生・ 高校生 （高校生以外 は保護者が回 答）	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 園児は約8割前後が保護者の送迎であるが、出勤等に合わせた送迎が比較的多い。</li> <li>• 小学校は南北2校あるが徒歩圏を超える地区が多く、車の送迎が35%前後を占め保護者の負担感も高い。</li> <li>• 中学生は自転車通学が多いが、車での送迎も27%あり、負担に感じる割合は70%を占める。</li> <li>• 高校生は鉄道利用が18%を占め、車での送迎は11%で登校時は父親が通勤に合わせる割合が高い。</li> <li>• 小学生以上では、冬場の安全確保等安全の観点から車で送迎しているのが目立つ。</li> </ul>
宿泊事業者ア ンケート調査  回答103人	宿泊事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 日本人客も外国人客も団体旅行者に比べ、個人旅行者が多く目立ち、外国人宿泊客数は年々増加傾向にある。</li> <li>• 宿泊者の利用交通手段は、自家用車が最も多いが、冬期は自家用車が減り、高速バス利用が増加する。</li> <li>• 宿泊施設の経営者は高齢化が進んでいる。</li> </ul>

### 3. 公共交通に関する課題（利用対象者別）

利用対象者ごとに、公共交通に関する課題を以下に整理しました。



#### 4. 公共交通体系の基本方針

地域公共交通総合連携計画において掲げた基本方針を基本的に踏襲し、第5次白馬村総合計画の基本理念を踏まえ、公共交通に関する意向調査結果や白馬村観光地経営計画等を参考に次のように設定します。

##### 【基本理念】

交流を促進し快適で安らぎのある豊かな  
生活環境を支える公共交通の実現

村民、高齢者、子ども、障害のある人、自動車を利用できない健常者、外国人、観光客など様々な人が活動している  
どの立場の人にとっても使いやすい多様な公共交通手段を整備することにより、これらの人々の交流を促進し、成長する村をつくっていく

##### 【基本方針】

次の4つの視点を今後の地域公共交通網の基本的な方針とします。

##### 基本方針 1

誰もが自動車に頼らず安心して暮らせる公共交通網の拡充

##### 基本方針 2

子供や家族が安心して負担のない暮らしを支える公共交通の確保

##### 基本方針 3

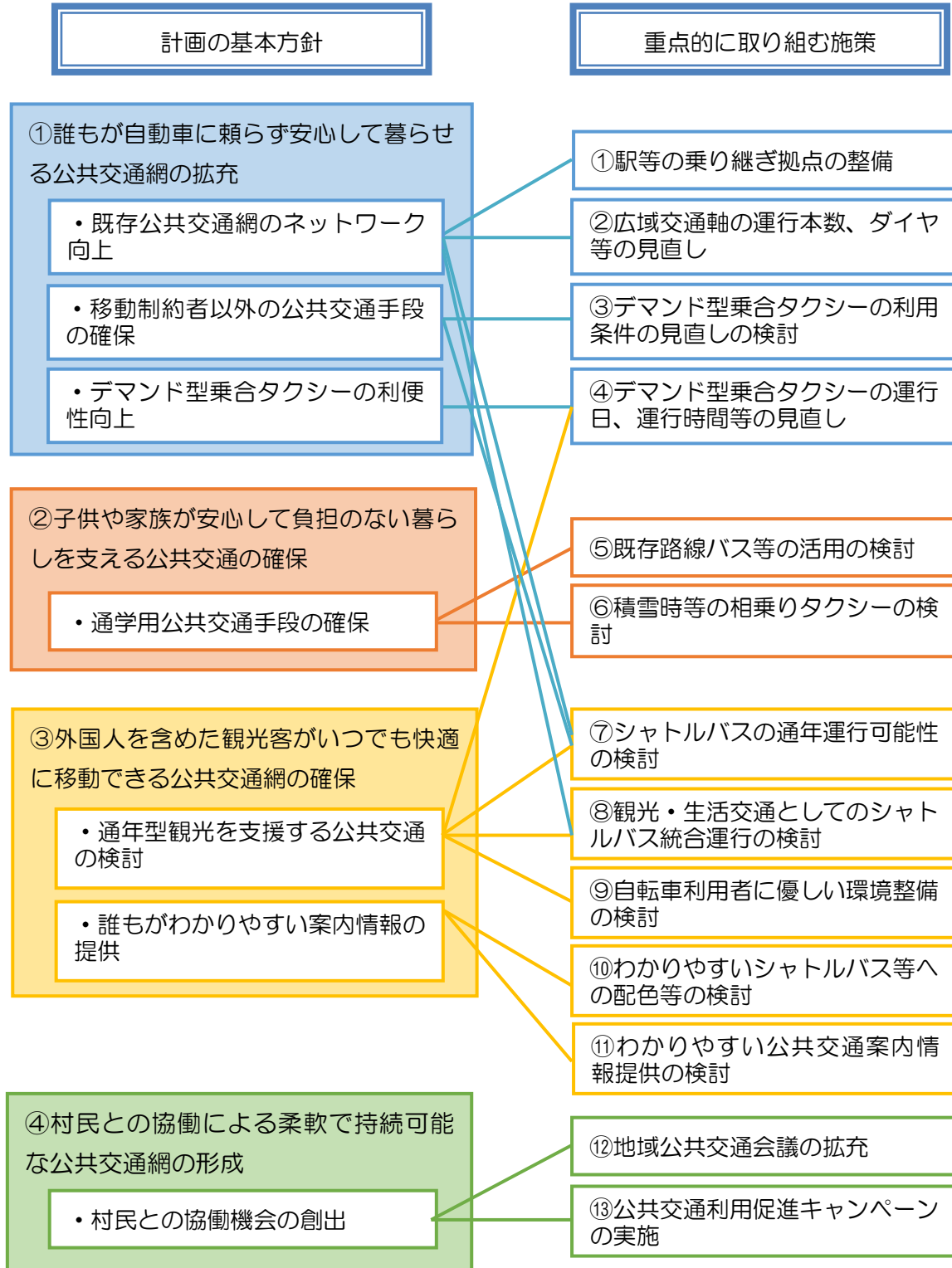
外国人を含めた観光客がいつでも快適に移動できる公共交通網の確保

##### 基本方針 4

村民との協働による柔軟で持続可能な公共交通網の形成

## 5. 重点的に取り組むべき施策

4つの計画の基本方針に基づき、重点的に取り組む施策を以下のように設定しました。



## 6. 計画目標

計画の基本方針に即し、各施策を推進した成果を確認するため、以下のように計画目標を設定しました。

### ■数値目標

計画目標	事業	成果指標		資料
		現状値	目標値	
<b>(1) 誰もが車に頼らず安心して暮らせる移動手段の確保</b>				
1) 既存公共交通網のネットワーク向上	①駅等の乗り継ぎ拠点の整備	●公共交通利用者数(人/日)		神城駅、白馬駅の乗車人数(H29)の実績
	②運行本数、ダイヤ等の見直し	337	現状以上	
2) 移動制約者以外の公共交通手段の確保	③デマンド型乗合タクシーの利用条件の見直し	●利用者数(人/年)		平成29年度延利用者数
3) デマンド型乗合タクシーの利便性向上	④デマンド型乗合タクシーの運行日、運行時間等の見直し	6,898	8,100	
<b>(2) 子供や家族が安心して負担のない暮らしを支える公共交通の確保</b>				
1) 通学用公共交通手段の確保	⑤既存路線バス等の活用の検討	●家族が負担に感じている割合(%)		通園・通学者アンケート(小中学生の負担割合(非常に負担、負担)の平均)
	⑥積雪時等の相乗りタクシーの検討	66.5	現状軽減	
<b>(3) 外国人を含めた観光客がいつでも快適に移動できる公共交通網の確保</b>				
1) 通年型観光を支援する公共交通の検討	⑦シャトルバスの通年運行の検討	●シャトルバス利用者数(人/年)		花三昧バス・ナイトシャトルバス(元気号)(H29)の実績
	⑧観光・生活交通としてのシャトルバス統合運行の検討	14,776(花三昧) 10,180(元気号)	現状以上	
	⑨自転車利用者に優しい環境整備の検討	●白馬サイクルフェスタの参加者数(人)		白馬サイクルフェスタの参加者数(白馬五竜観光協会)
2) 誰もがわかりやすい案内情報の提供	⑩わかりやすいシャトルバス等への配色等の検討	●解決すべき課題の中の「案内表記」の割合(%)		冬季インバウンドアンケート調査(H28-H29)
	⑪わかりやすい公共交通案内情報提供の検討	10.0%	現状軽減	
<b>(4) 村民との協働による柔軟で持続可能な公共交通網の形成</b>				
1) 村民との協働機会の創出	⑫地域公共交通会議の拡充	●会議の開催回数(回)		地域公共交通会議の開催回数(H30)
		1	現状以上	
	⑬公共交通利用促進キャンペーンの実施	●村民満足度(%)		村民アンケート(公共交通別の満足度(大変満足、満足)の平均)
		17.2	30.0	



## 8. 事業スケジュール

計画目標年度（平成 36 年度（2024 年度））までを短期、それ以降を中長期として、各施策の事業スケジュールを以下のように設定しました。

	事業	実施主体	短期 (H31 年度 ~ H36 年度) (2019 年度 ~ 2024 年度)				中長期
			H32	H33	H34	H35	
①	駅等の乗り継ぎ拠点の整備	白馬村、JR、バス事業者		検討			計画・実施
②	運行本数、ダイヤ等の見直し	白馬村、JR、バス事業者		検討			計画・実施
③	デマンド型乗合タクシーの利用条件の見直し	白馬村、タクシー事業者	検討・計画		実施		
④	デマンド型乗合タクシーの運行日、運行時間等の見直し	白馬村、タクシー事業者	検討・計画		実施		
⑤	既存路線バス等への活用の検討	白馬村、バス事業者	検討		計画・実施		
⑥	積雪時等の相乗りタクシーの検討	白馬村、タクシー事業者	検討		計画・実施		
⑦	シャトルバスの通年運行の検討	白馬村、バス事業者、索道事業者	検討		計画・実施		
⑧	観光・生活交通としてのシャトルバス統合運行の検討	白馬村、バス事業者、索道事業者	検討		計画・実施		
⑨	自転車利用者に優しい環境整備の検討	白馬村		検討・計画・実施			
⑩	わかりやすいシャトルバス等への配色等の検討	白馬村、バス事業者、索道事業者	検討		計画・実施		
⑪	わかりやすい公共交通案内情報提供の検討	白馬村、各交通事業者	検討		計画・実施		
⑫	地域公共交通会議の拡充	白馬村		実施			
⑬	公共交通利用促進キャンペーンの実施	白馬村、各交通事業者	検討		計画・実施		